

第9回 全員協議会会議録

1 日 時 令和7年6月27日（金） 午前10時28分 開会

2 場 所 本会議場

3 出席委員 15名

| | | | |
|-------|---------|-----|---------|
| 議 長 | 小 嶋 正 彰 | 議 員 | 渡 部 道 宏 |
| 副 議 長 | 宮 崎 淳 一 | 〃 | 天 野 京 子 |
| 議 員 | 島 田 竜 史 | 〃 | 阿 部 幸 夫 |
| 〃 | 今 田 亜 樹 | 〃 | 横 尾 祐 子 |
| 〃 | 渡 邊 能 成 | 〃 | 高 田 保 則 |
| 〃 | 岩 澤 愛 | 〃 | 宮 澤 一 照 |
| 〃 | 葭 原 利 昌 | 〃 | 霜 鳥 榮 之 |
| 〃 | 堀 田 孝 次 | | |

4 欠席委員 0名

5 欠 員 1名

6 説 明 員 5名

| | | | |
|-------------|---------|-------------|-------|
| 市 長 | 城 戸 陽 二 | 財 務 課 長 | 西 條 保 |
| 総 務 課 長 | 大 野 敏 宏 | 観 光 商 工 課 長 | 松 橋 守 |
| 企 画 政 策 課 長 | 岡 田 豊 | | |

7 事務局員 3名

| | | | |
|---------|---------|-----|---------|
| 事 務 局 長 | 横 田 晃 悦 | 主 査 | 桃 井 唯 華 |
| 庶 務 係 長 | 霜 鳥 一 貴 | | |

8 件 名

1) 道の駅あらいりリニューアル基本構想の概要について

○議長（小嶋正彰） ただいまから全員協議会を開催します。タブレットのサイドボックスのアプリ、タップしていただいて、市議会の全員協議会フォルダの中に、本日の資料070627 全協レジメ（執行部）、他関連資料がありますのでご確認ください。これより執行部の報告に入ります。

1) 道の駅あらいりリニューアル基本構想の概要について

○議長（小嶋正彰） 1) 道の駅あらいりリニューアル基本構想の概要について。観光商工課長。

○観光商工課長（松橋 守） それでは道の駅あらいりリニューアル基本構想についてご説明いたします。まずお詫びになりますけれども、当初作成いたしました資料について、2ページの上段左の要望書の現状の中で、人口の下に、道の駅あらいの現状とミスプリがあったため、昨日、修正した資料を改めて送らせていただきました。確認が不足しておりましたことにつきまして、お詫び申し上げます。申し訳ございませんでした。それでは改めて説明をさ

させていただきます。今回の基本構想と基本計画の策定につきましては、昨年7月から着手し、当初、令和6年度中の基本計画策定までを目指しておりましたが、3月議会でもご説明しました通り、検討委員会の意見や関係機関との調整を踏まえ、令和6年度中は基本構想、令和7年度中に基本計画の策定と事業を1年繰り越しさせていただいております。また4月25日には、道の駅第3ステージ応援パッケージの支援対象に選定され、各省庁が連携した伴走型の支援を受けながら、基本計画の策定や設計工事などを進めていくこととなります。それでは資料の1ページをご覧ください。策定の背景と目的ですが、道の駅新井は平成12年の供用開始から24年以上経過し、施設の老朽化が進んでいることや、来場者数も年々減少傾向にあることから、このような流れの中で道の駅がされてしまう前に、大々的なリニューアルが必要と判断し、今回の取り組みを進めることといたしました。また令和2年度に東側エリアを拡張し、翌3年度には当時県内唯一となる防災道の駅にも登録されました。そのような中、令和6年1月に発生した能登半島地震では、北陸自動車道の通行止めと、上越地域の日本海沿岸の津波警報の発令により、駐車場は避難者で溢れ返り、実際に自衛隊や消防などが入った場合に、活動スペースが確保できないことや、被災地に支援物資を配送する際に、物資を集積する場所がないこと。また悪天候の中での配送作業となることなど、防災道の駅としての課題が顕在化しております。これらの状況を踏まえ、基本構想の作成にあたりましては、検討委員会とその下に作業部会を設置し、大学教授をはじめ、国、県、NEXCO滋賀東日本商業系コンサルタントなどの有識者をメンバーとして、昨年9月から今年4月までに作業部会、検討委員会をそれぞれ3回ずつ開催し、議論を重ねて基本構想の作成、策定に至ったところです。続きまして2ページをご覧ください。これまでの道の駅は、休憩施設やトイレ、駐車場、情報提供施設などを整備した第1ステージ、次に地域との連携を深めたり、地域の特産品を販売する地域振興の拠点。地域住民と観光協観光客の交流の場などの役割を担う第2ステージと、時代の変遷とともに、その役割も変わってきておりますが、これからの道の駅につきましては、第3ステージとして、道の駅が地方創生を加速させる。まちづくりの中心を担うという重要な役割を持っております。2ページの上段では、妙高市と道の駅新井の現状と課題についてまとめております。道の駅あらゆる現状としましては、国道18号、上信越堂、新井パーキングエリアに近接し、国道18号の東西エリアに飲食物販などの店舗が複数立地しておりますが、西側エリアの建物の老朽化や、細長い地形による回遊性の悪さとあわせて、利用者のアンケートでは、高速道路側からのアクセスがよくないなどの意見をちょうだいしております。これらの課題を踏まえて、資料の下段では、中央に、妙高市が抱える課題等に対して、道の駅リニューアルで挑戦する4つの項目をまとめています。1つ目は新たなまちの交流拠点居場所として、地域住民や地元企業、行政が協働できる場づくり。2つ目は、国道、高速道路の両面からの集客確保により、利用者数、利用者満足度と消費額を最大化すること。3つ目は地域の持続に必要な基幹産業の維持発展と循環、4つ目は新しいアイデアや取り組みも歓迎し、企業産業、特に農業の維持発展及び新規産業の開発などに挑戦することとしております。この左側に、課題解決への支援策としまして、持続可能な地域コミュニティの構築。観光軸とした地域一体での稼ぐ仕組みづくりの推進。外国人観光客受入環境の充実。安定した農業基盤の確保の4つを挙げました。一方右側には、リニューアル効果の波及としまして、災害時における市民や避難者の安全確保、地域医療体制の確保。障害者福祉の充実。脱炭素社会の実現。などを挙げております。次に資料3ページをご覧ください。先ほどの考え方を踏まえて、今回のリニューアルのコンセプトについてまとめております。まず左側になります。リニューアルに当たり、地域全体の魅力を高めるまちと、道の駅の共通のコンセプトとして、みんなの力とまちの魅力の好循環を分けました。まちの発展は、まちの魅力が人を呼び、集まった人がまちを活性化させることで、さらなる魅力的なまちへ成長する好循環の実現を目指します。この循環を生み出すためには、誰もがまちづくりに参加できること。参加した人々の力をつなぎ、大きな力にすること。人と町の魅力が繋がる機会や場所を作るための取り組みを行っていくと、が重要だと考えております。次に右側をご覧ください。

い。道の駅あらゆるリニューアルのコンセプトですが、地域とともに利益を最大化し、収益元気を地域に還元する循環装置といたしました。町と道の駅の共通のコンセプトの実現に当たり、道の駅は様々な人や組織との繋がりが、まちを成長させる大きな歯車として、地域とともに生み出す利益を地域に還元する循環装置となることを目指し、そのテーマとしまして、人をつなぐ仲介、地域をつなぐゲートウェイ。安心をつなぐ防災としております。

1点目の人をつなぐ中継の取り組みでは、市内外から多くの人を訪れる道の駅は、関係人口の創出の場として、また移住や定住を見据えた交流を深める場所となることを期待しております。2点目の地域をつなぐゲートウェイは、道の駅の来訪者を周辺の観光施設や中心市街地へ誘導するため、市内の観光情報や飲食店の情報などを初めとした、情報提供機能の充実や、地域住民の利用促進を見据えた中心市街地や周辺施設と道の駅を結び、例えばオンデマンドバスの運行など、交通機能の強化を目指したいと考えております。3点目の安心をつなぐ防災は防災道の駅としての機能強化を図ることとしており、災害時に、ライフラインが分断されている状況でも、道の駅が単独で運営できるように、脱炭素の取り組みでもある。バイオマス発電を使った電力供給や、救援隊の活動スペースの確保のための芝生広場の整備。道の駅間のネットワークの強化や、救援物資の受け入れ発送体制の強化など、災害時の備えと、普段使いの両立を目指したいと考えております。左下の地域資源と活用の方向性をご覧ください。これら構想の実現に向けましては、地域資源の活用が重要であり、検討委員会の中におきましても、厄介なものをうまく活用する。今ある、すでに魅力的なものをさらに磨き上げる。新たな価値の創造という3つの考え方が提案され、それぞれや、厄介ものを転用する、すでに魅力的なものを育成する。新たな妙高ブランドとして価値を創出するなどの要素を加味することにより、リニューアルした道の駅は、地域全体のブランディングにも寄与する。まちぐるみで課題解決へ挑戦する拠点とするとまとめております。次に資料4ページをご覧ください。ここではリニューアルのコンセプトの実現に向けて、道の駅新井での取り組みについて、第4次総合計画の施策を踏まえ、2ページで説明しました8つの課題に対して、どういうテーマでどう取り組むかをまとめております。その1例ですけれども、例えば、挑戦、①では、持続可能な地域コミュニティの構築で、移住定住促進、競技スポーツ生涯スポーツ地域での活動費用の捻出の3つをテーマとしております。その中でも移住定住では、地域の人や魅力に触れ合うことで、地域外からの移住定住のきっかけの創出拡大に繋がるため、地域イベントの紹介や、具体的な活動のコーディネートなど、幅広いニーズに対応できる窓口の設置を考えております。また、調整⑤の災害時における周辺住民や避難者の安全確保では、確実に災害対応活動を実施できるスペースの確保。関連技術の開発、導入支援の2つをテーマに、災害時に、緊急援助隊などの活動拠点として、車両が入港できる芝生広場を整備し、平時はスポーツやイベント広場として使用することを考えております。これらはあくまでも現時点での案レベルとなりますので後程ご覧いただきたいと思っております。次に資料5ページをご覧ください。こちらは道の駅あらいのリニューアルに向けた地域との繋がりについて。循環と波及効果をイメージで示しております。緑のラインが循環で、青のラインが波及効果のイメージとなっております。1つの取り組みから多方面波及効果を生み出し、地域非資源を無駄なく準無駄なく循環することで、地域の利益を最大化し、収益と元気を地域に還元する循環装置としての役割を果たすことを目指しております。最後に資料6ページをご覧ください。改修に向けたイメージとなります。今回の検討では、主に西側エリアをにぎわいづくり、東側エリアを防災機能の強化という観点でまとめたいと考えております。上信越自動車道等、国道18号に囲まれた西側エリアで、紫色のエリアが、現在の区域の情報館と避難、そして新井パーキングエリアのトイレ周辺までを含んだエリアで、ここに拠点となる施設を整備したいと考えております。なお、改築か改修かの判断につきましては、施設規模も含めてこれから検討したいと思っております。次に、黄色のエリアが商業エリアで、面積は現在と変わっておりません。これから地域活性化企業人が出展者に対する各種調査を予定しており、出展者の動向次第では、調整が必要になると考えております。次に東側エリアですが、緑のエリアが2つありますけ

れども、こちらは災害時の活動スペースとしまして、普段使いは芝生広場として、スポーツやイベントなどで活用することを検討している場所になります。ただ冬季間の利用などに課題はありますけれども、国からその必要性について話があったものです。青のエリアが、森林バイオマス発電施設や花畑の設置などを検討しているになります。森林バイオマス発電の敷地面積は確定できておりませんが、最低 6000 平米程度必要とのことで、これから具体的な整備に向けた検討を進めることとしております。花畑につきましては、空きスペースを活用して、例えば用法をやってはどうかなどという提案もございましたので、それらも含めて検討したいと考えております。今回説明いたしました基本構想はあくまでもこれからの道の駅像を示したもので、これはすべてが事業として形になるものではなく、事業主体の決定なども含めて、これから具体化していくことになります。特に波及効果や循環等につきましては、道の駅リニューアルにとって非常に重要な部分であることから、事業内容やスキーム、事業主体の確定など、事業実施に向けて、現在庁内で特定プロジェクトとして検討を進めております。地域での体制づくりや、事業者間の連携、企業誘致など、事業の進捗が図られるよう、検討をこれから進めて参りたいと考えているところで、今後につきましては、土地利用計画等は決まった段階で、改めてまた皆様方にご説明させていただければと考えております。大変長くなりましたが以上で説明を終わります。

○議長（小嶋正彰） ただいまの件について何かご質問等あります。宮澤議員。

○議員（宮澤一照） 宮澤です。ちょっとお聞きしたいんですけども、道の駅あらいの検討委員会ですね、これにはくびき野情報館の代表は入ってないんですか。

○議長（小嶋正彰） 観光商工課長。

○観光商工課長（松橋 守） お答えいたします。道の駅の検討委員会にはくびき野情報館の代表のかたは入っておりません。ただ作業部会には入っております。

○議長（小嶋正彰） 宮澤議員。

○議員（宮澤一照） 1つお聞きしたいんですけども、我々この当市は、なんて言っているのかな、私なんていうのは皆さん方してみると厄介者だと思うんですよ。すごく。いや言っていないけど自分でも自負してて、厄介者だと思って、隣の高田さんからもよく笑いが聞こえるけれども、ただね、僕は雪はね、厄介者と思っちゃいけないと思うんですよ。雪のおかげで、我々行政がどれだけ助けられてきたか。観光にしたってそうだし、いろんな面において、この雪があるからこそ我々のこの行政は成り立ってきたんだと思うんですよ。それをね、この検討委員会、この検討委員会、これ市長も入ってられるけれども、厄介者っていうので振り分けたら、これはちょっといかなものかなと私思うんですね。その辺どのようにお考えでしょう。

○議長（小嶋正彰） 観光商工課長

○観光商工課長（松橋 守） お答えいたします。雪は厄介者と明言はしてはおりません。今宮澤議員おっしゃるように、やはりこの地域にとっては大事な資源、環境の観光の活性化に繋がる非常に重要なものと考えております。ただ場所によっては、例えば先ほどちょっと申し上げましたけども、芝生広場の運用などの面で、冬季間少し使いつらい部分があるというふうなところは出てきますけれども、雪そのものは決して厄介者ではないというふうにとらえております。

○議長（小嶋正彰） 宮澤議員

○議員（宮澤一照） いや、課長、そうはおっしゃいますがね、主な地域資源というところでかく雪って書いてその横に全く行っていくと厄介者って書いて、これどう考えたって厄介者ってのは雪だっていうふうに見えますよこれ。常識的に考えて。私はね、厄介者っていうよりも、まず、すごく、第2道の駅もそうだけでも、あそこの車線の変更ですね、分からんうちに左2車線に変更するところにいったって、どうしても、まっすぐ、妙高方に行くのに非常

に苦勞する、途中から変えなきゃいけなくなってくるとか、そういう間違いの方が、私は正すべきであって、雪を厄介者に、あたかも見えるようなこの文言、それからこういう書き方はちょっと。うん。これは、地元の人が、これ妙高市長入ってるんだけれども、こうやって入ってる自体は、ちょっとおかしいんじゃないかなと私思いますよ。そこはちょっと、もう少し考えられた方が良くないかなと思います。何回も言いますが、厄介者って今、パワハラだパワハラだっていうことでね、上越市議会でもいろんなことを言われてますけれどもね、厄介者だって、これコンプライアンスに入るんじゃないの、こういうのってどうなんでしょうかね。私、すごくそれを思うんですよ。やっぱりここは、ちょっともう少し、おれ、小さな時から厄介者のように思われてきて、自分も自負しているからいいんだけど、雪は資源だから、そのへんをもう少しお考えになられたらいかがか、どうかと、委員会で何で雪を厄介者と言う風に出してくると私にとってすごく思うんですよ。妙高市の道の駅というのは、地域の資源、地域の観光ということおっしゃられているんじゃないですか、それを考えれば、雪があるからこそ、旅館に配分もできるんだし、観光もできるでしょ。そこがメインだと思うんですよ。ロッテにしても妙高にしてもみんな雪、除雪にしてもそうじゃないですか。除雪体験にしたってそうだし、雪があるから生きられるんですよ。厄介者なんて言葉が、この雪のとなりに出るってこと、いかかなものでしょうか。これ、再度申し訳ございませんがお願いします。

○議長（小嶋正彰） 松橋課長

○観光商工課長（松橋 守） すいません。委員さんからもそういう意見が出たものですから、運用させていただきましたけども、おっしゃる通り、我々の捉えも今宮澤議員がおっしゃったように、決して、厄介者だけではなくて、貴重な地域資源という風に捉えております。のところで、ちょっと表現が何ていうんでしょうか、使い方によっては、当然メリット、デメリット出てくるかと思しますので、そのメリットでない部分、不具合の部分少し厄介な者という風な表現されたかと思しますが、またこちらの方の表現につきましては、他意はなく、基本的には雪は貴重な資源という風に捉えているということでご理解いただきたいと思します。

○議長（小嶋正彰） 宮澤議員

○議員（宮澤一照） ぜひよろしくお願いします。厄介者もうまく使うと活力の出る、いいものが生まれますよ。よろしくお願いたします。もう1つ、以前より、生命地域の創造って言葉を非常に発せられて、各ゾーンを交えてですね、いろんな改革をやってこられました。そういうことを考えたときに、どうも想定から見ると、例えば、何ですか、医療施設ね、健診施設だとかもそうですし、例えばその場所その場所にあるからこそ、また有意義に使える部分もまたあったと思うんですね。そういうことを考えたら、ここの道の駅に1極する巨大リゾート、巨大ゾーンを集中するかのように私は思えてなりません。例えば、今回なちなかぶらすでしたっけ、新図書館を作るんだったらば、例えばサンライズに、健診の場を持ってきて、それでまちなかをしっかり回すっていうんだったら、これはすばらしい案だなというふうに思うけれども、いきなり、何ですか、そういうところにね持っていくっていう発想、これは、どうもその生命地域の創造や生命地圏域の創造に対して、これに対して、どうもそれとは真逆の方向に向かってんじゃないかと思します、その辺はいかがでしょう。

○議長（小嶋正彰） 観光商工課長。

○観光商工課長（松橋 守） 生命地域の創造等につきましては、やはりこの妙高市の基本、本当に基本的なコンセプトに繋がるかと思します。今ほどの健診センターのお話ですけれども、こちらにつきましては上越医師会さんが、今後のいろんな事業展開の中で、ご相談をいただいているもので、何ていうんでしょうかね、広く事業を拡大する中では、道路のアクセス等についても、少し利便性のいいところと、というようなお話もあった中で、今協議をしているというふうなところでございます。

○議長（小嶋正彰） 宮澤議員

○議員（宮澤一照） ぜひですね、アクセスもわかるんだけど、やはりまちなかの発展ということを考えたときに、その皆さんが、いかに市民が集まる場所を作るかっていうことで、皆さん方が庁内っていう言葉をすごく皆さんがたを今お得意になられてしゃべられてる庁内を挙げてって言われてますけれども、庁内を挙げて、まちなかぶらすっていうのを活性化させるっていうことで考えておられるんですしたら当然、まちなかの方に誘致していきたいっていう考えになると思うんですよ。なんで、その意見を、いや実は妙高は、まちなかに火をそういう健診の会場を持っていきたいんだと。そのために、例えば地下の駐車場を整備するだとか、そういう形に繋がってくると思うんですよ。例えば、駐車場にしたって、図書館のところで新しく開発する駐車場をいかに生かすかっていうことだって生まれてくると思うんですよ、六・十の市にしてもそうですよね。そうすることによって、回遊性が生まれてくるのに、1極集中させちゃったら、そこはまた衰退してっちゃう可能性もあるし、まちなかぶらすだって、皆さん庁内挙げている割には、これに関してはどうも、そちらの方に、移行している。それは何らかの力が働いてるんじゃないかと思います。それ市長だいじょうぶ。どうでしょう。いいですよ。どちらでも、怒られちゃうから。

○議長（小嶋正彰） 城戸市長

○市長（城戸陽二） お答えさせていただきます。今回、道の駅のリニューアルはあくまでも、リニューアルにあたっては、国、様々な関係省庁からの応援をいただかなきゃいけないっていう中では、国の第3ステージの、まず目的に沿って判断をさせていただいております。この第3ステージの目的というのは、この3ページですかね、3ページにあるように、まちと一体となって作っていくという形になりますので、今回、様々な案として、今、基本構想を作らせていただいております。先ほど課長が言ったように、この基本構想はすべて実現するとすると、膨大なお金も必要だし、すべてがそこに集まるようなイメージになりますけれども、あくまでも私たちは基本構想をつくるときは、もう風呂敷を広げましょうと、最初から小さく固まらずに、まず、何て言うかな、理想とするべき道の駅はこうあるべきだという形の中で、基本構想を固めさせていただきました。今年これからこれらをもとに基本計画に入っていきますけども、当然相手のあることもあって、これがすべて実現するという形は当然難しいというふうに思っております。けども、まず、道の駅をもう一度、日本一の道の駅に戻すためには、何が必要で、関係省庁から、すべてのところから力を借りるためには、まずは構想の段階では、大きく作らせていただいております。ここにですね、一極集中とか、そういう意味ではなくて、本来あるべき国は、道の駅ってのはこういうことだという形をすべて盛り込んでるということでご理解いただきたいというふうに思っております。

○議長（小嶋正彰） 宮澤議員

○議員（宮澤一照） ねえ。おつきく風呂敷を広げるっていうことは、わからんでもないんですけども、ただそれを広げることによって、そっちに改革が進む、そっちの方に目が行く、そういうことによってまちなかがすたれていっちゃう。そういうことも懸念される部分があると思います。それらを含めた、大きなもう少し発想にすべきではないかなと思います。これをやることによってまちなかが幾らいい図書館が作ったからって、そっちには今度集中しちゃう、こっちを作って、はい今度違うところに行ってまたそっちを作ったじゃ、ただつくるだけ、いわゆる箱物行政を、また同じことをやるような方向性と全く、同じじゃないかなと思うんですよ。それじゃやっぱりよくないまちなかが、いかにその市民が回遊性を伴った、円滑なそういう誘導ができるような方向性っていうことが大きく風呂敷を広げる中でも、作り上げていくっていうことは、重要だというふうに私は思いますんで、その辺を含めた、考えでお願いしたいと思います。最後に、1つだけ、今風呂敷を広げたって言いますが、ただ、それだけ夢を夢だけを描いてるんじゃないかと、それには当然お金が伴います。そのお金の総額っていうのはどれくらいをめぐにした、考えでこの案を作られているか、それだけお聞きしたいんですけど、いかがでしょう。

○議長（小嶋正彰） 観光商工課長

○観光商工課長（松橋守） お答えいたします。予算総額につきましては、ある程度基本計画の中で積み上げていった上で出てくるというふうな形になります。なもんですから、まだちょっと詳細までは、これから大まかなめどは、当然立てますけれども、その積み上げ方によっては、そこで若干増減が出てきますので、ちょっとそれについては、また後程ご説明させていただきたいと思います。ただその財源としましては、先般の採用、登録されました第3ステージの応援パッケージの中で、また国等からの支援も受けられますし、それ以外の使える補助金等につきましては、使う中で、有効な施設利用と、施設の整備を行ってきたいというふうに考えております。

○議長（小嶋正彰） 宮澤議員

○議員（宮澤一照） そうは言ったって、やっぱり何かこういう構想するには大まか、どれぐらいの額で、そういう工程を法定なんていう構想しなきゃいけないっていうのこれ、普通一般的に、何をやるにしたって、やっぱりある程度幾らぐらいの予算でっていう、家建てるのにも、とりあえず家作ってくれ、お金なんて幾らでもあれだから後からっていうようなものであって、やっぱり、幾らいくらあるんだから、これぐらいの予想があるんでこれでどういう形を作るっていうのが、私は検討委員会だと思うんですよね。その辺がどうなってんのかなと思っていて、私はてっきり、今回その道の駅のリニューアルっていうふうに、予算とかいろんな、議会でも出てたんで、てっきり私はくびき野情報館からひだなん、あの辺を、直すもんだというふうに理解してたんですね。そこがこういう、こう一緒になってきたっていうことっていうことは、もう総トータルでどれぐらいをめどにした、ものを作り上げていくかっていうことになってくると思います。その辺を含めた考え方っていうのは、出してもいただけないんでしょかねこれ。今、ただ、風呂敷を広げるからって言ったって、幾らなんだって、あるある程度の料金がやっぱりあると思うんですよ。例えば、総予算 220 億 230 億のこの妙高市の総予算の中で、それで、例えば、何ですか貯金が幾らあってっていうことから、そっからどれぐらいの捻出をするのかっていう、財政調整基金にしてもそうだけど、そういうところが捻出していか、補助金がどれぐらい出るか、交付金がどれぐらい出るのかっていうことは、わかった上での構想じゃなかったら、今日ここで意味してることってのは、非常にただ、夢を語ってる私は、あれにしか過ぎないと思いますけれども、その辺どうでしょうか。

○議長（小嶋正彰） 観光商工課長

○観光商工課長（松橋守） 検討委員会の中で、いろんな意見をいただく中で、今回構想というふうな形でお示しさせていただきましたけれども、なんでしょう経費の部分といいますか、総額につきましては、先ほど申し上げましたように、これからちょっと積み上げていきたいというふうに考えているところです。

○議長（小嶋正彰） 霜鳥議員

○議員（霜鳥榮之） よろしくお願ひします。今、宮澤委員との間、議員との関係で、関連がありますけども、3ページですね、やっぱりリニューアルのコンセプト、みんなの力まちの魅力、道の駅作って、東雲町通りを直接ストレートにこうつないだっていうときにですね、やっぱりみんなまちから、みんな外へ出てくんじゃないかっていう議論が、かなりあったんですね。結局道の駅を発展させることによって、まちの中すたれるよという、こういう議論がかなりあって、じゃあ実際どうなのよっていうと、そういう流れになってるのかなっていうふうに思われます。で、今ここでもってリニューアルをっていうことでもって、いろいろこう構想が練られておりますけども、この中で言っている、結局、人とまち、まちの魅力向上、まちの魅力向上というのは、この道の駅のリニューアルとの関係の中で、まちの魅力の向上ってのはどういう組み立てをしていくのかな。そこだけの1点の発展云々のレベルの話じゃないと思うんですね。逆に今度は道の駅から、町に流れ込むような方策も検討しなきゃならん。十分に考えていかなきゃならない。まちの中の魅力って何なのよと。今は、まちの中も、過疎化の進展っていう位置付けでも

って言われてきてるん状況ですからね。ここをいかに、今、宮澤議員が言ったように、いかにまちの中を発展させるように、リニューアルを進めていくかと、いうことの大事さ、ここは大いに検討を深めていただきたい。地域の皆さんも、やっぱりそこにきちんと生活実態との絡みの中で繋がっていくっていう、この連携をぜひお願いしていきたいなというふうに思います。それからもう1点は、防砂拠点施設の関係です。安心をつなぐっていう形の中で、ここでは、発電所も作って、停電時災害時云々っていうのも、独立してそこが運営できるようにっていう形で、これ大いに結構な話だというふうに思います。で、ここを拠点としてっていった場合には、なんていいますかね、防災の拠点といったときに、情報提供の拠点でもなきゃならないと。情報を、の発信する拠点にするには何なのかっていうここでもって、バイオマス発電もやるよという形なんですけども。ここでもって、もし商業電源がなくなっただって言ったときには、地域全体が、そういう通信網、情報網が途切れる。そんな中でもっていかには発信をしていくかっていう、ここんところを、大々的に検討していく、そういう状況にいるんじゃないかなというふうに思うんですけども。その辺のところも含めて、構想の中にどういう位置付けでもって見ていくのか、お聞かせをしていただきたいと思います。

○議長（小嶋正彰） 観光商工課長。

○観光商工課長（松橋守） お答えいたします。この道の駅の市街地との関係性ですけれども、こちらの方の資料にも少し触れておりますけれども、まず、道の駅が妙高市のゲートウェイ機能を持たせるということで、道の駅から、中心市街地、それから例えば観光客でしたら市内の観光施設の方に誘導していくために、先ほどちょっと申し上げましたけども、情報発信ですとか、情報提供を図りながら、誘導していきたいと。ただ中心市街地に人を誘導するに当たりましては、いやというか、中心市街地と、道の駅との往来といいますか、行き来につきましては、やはり何て言うんでしょうか、勝手に行ったり来たりしなさいというわけには、なかなかいかないかと思っておりますので、そういう部分については例えば、市街地から道の駅まで行くための足の確保、ということについても考えなければいけないと思っておりますし、その辺も含めた中で、先ほどオンデマンドバスというふうなお話もしましたけれども、2次交通につきましては、これからちょっと協議をしっかりとしていきたいというふうに考えているところです。そん中で中心市街地はまちなかプラスというふうな核になる施設もできますので、それと道の駅との循環といいますか、相互活用について、先ほど言いました2次交通を含めて、しっかりと連携していきたいなというふうに考えているところです。防災の関係ですけれども、今バイオマス発電で考えておりますのは、あくまでもその道の駅が防災道の駅というふうな位置付けがございますので、最低限その道の駅の機能については、維持できるようにというようなところをまず第一義的に考えております。そこで発電したものを、例えば市内全域にってのは、とても無理な話ですので、場合によっては、その活用の中で、別の拠点のところに送電できるのかどうなのか、またそのための仕組みといいますか、電気網も必要になりますので、なかなか難しいと思っております。ただそこでもって情報を集約したりとか、国とかの情報の集約ですとか、その発信については、それについてはこの検討の中で考えてきたいというふうに思っております。

○議長（小嶋正彰） 渡部道宏議員。

○議員（渡部道宏） 市長からも大きく構えろということなので、そもそもこの道の駅厄介者となっているのが、東と西が分断されてるからですよ。だから、東と西をつなげなきゃだめだと思うんですよ。地下を通ってもそうですし、今回の防災の関係、北陸から流れてきたけども、駐車場がいっぱいだ云々だという話もありましたが、これ高速道路から、ダイレクトに東側に入れるようなインターみたいな形ですかね、そういうの作ってもいいんじゃないですか。逃げてきた人がすぐ東側の方へ入ってこれるし、西にも入れるしと、そうすれば両方はくまなく使えるし、そうすれば、何ですかね、東も西も分断なく使えるってこともなるし、言うなれば、西側から東側に地下通路みたい

なのを作って、車が全部そこを通っていけるようにしてしまえば、両方の駅、道の駅を均等に使えるようになりまし、とにかく西と東が分かれているっていうのが、過去から、西ばかりはやって東に客が行かないんだとか、そういう問題が出てきて、1つのエリアで行き来できるようにしちまえば、そしたら、西側へ逃げてきた人、高速から降りた人も東側に行けるし、東側の人も西側に来れるしということで、大きく構えて、やっぱり西と東を1つで、一体としてなんですかね、1つの建物として見るぐらいのことを、検討会の中で検討していただけるかどうかをお聞きしたいんですけども。

○議長（小嶋正彰） 観光商工課長。

○観光商工課長（松橋守） はいお答えいたします。おっしゃる通り、地下通路等で結べば、確かに利便性という部分では、極めて向上するかと思います。これまでも、やはりそのような、一体的な利活用の中で協議されてきたお話しでありますけれども、ただその中で、現実的な、例えば何ていうんでしょう、道路の運用ですとか、経費の部分ですとかっていうところを協議した中で、現在の信号を設けて、多少ですけども、行き来しやすくしたというところになってるかと思いますので、今後の検討の中で、というふうなお話いただきましたけれども、なかなか現実的には、ある程度、回答といいますか、結論が出ているお話ではないかというふうに捉えております。

○議長（小嶋正彰） 渡部道宏議員

○議員（渡部道宏） ですので、今あそこを信号をつけて、行き来できるようになって、それはあくまでも人の往来ですよ。ただ今回車は避けている人が、ずっと来てね東側の駐車場がいっぱいになっちゃったとかって話もあるので、本来であれば、高速道路からダイレクトに東側に入れるぐらいの形を考えていかなければいけないし、それ予算で回答が見えているなんてこと言ってたら、これから道の駅のリニューアルとかって話にはなかなかこないと、先ほど宮澤議員が言ったみたいに、金目でここまでだと言われてしまえば、それはそれまでで、じゃその金の中で考えましょうって話になってしまう。せっかく国が入っているんですから。人命を守るための施策なんだから、とにかくそれをまた盾に取ってじゃないですけども、東側へのなんていうんですかね、インターで乗り入れできるようにしろとか、そういう要望はどんどん出してやったっていいと思うんですよ。それが地方のちっちゃい自治体の役割であるし、高望みになるかもしれないですけど、言ってみる価値はあると思うので、ぜひ、要望の方して見ていただいたくことはできますでしょうか。要望ですけど。

○議長（小嶋正彰） 観光商工課長

○観光商工課長（松橋守） いただいたご意見につきましては、私は国の方に伝えて参りたいと思っております。

○議長（小嶋正彰） 宮崎淳一議員

○議員（宮崎淳一） お願いします。まず検討委員会の委員の委員の構成ですよ。道の駅というのは、農業の関連の施設もございました。当初、東側については、農業関連予算の方も、付いているかと思います。農の関係の専門家ですとか、そういった、姿が見受けられないということでございます。或いはこの中のまた、その次の作業部会にそういった方の専門家がいらっしゃるのかどうかについてお願いします。

○議長（小嶋正彰） 観光商工課長

○観光商工課長（松橋守） お答えいたします。検討委員会の中では、西側のまずは、老朽化といいますかリニューアルする部分についてご意見いただくという関係で、こちらの方にお示ししております委員の方を選定させていただいております。なもので、農業の関係の方ってのは、こちらの方には含まれておりません。作業部会の方ですけども、こちらにつきましても、農業の部分につきましては、委員としては、入っておりません。

○議長（小嶋正彰） 宮崎議員

○議員（宮崎淳一） はい。と言いますと、その計画というか目指すところですよ、その中で4ページになりますよ

ね。農福連携ですとか、そういったことで、ウイスキー工場の部分を活用、或いは東側、バイオマス発電ということで農地を活用してということになります。少なからず、農業、或いはそういったことの専門家、或いはそういった連携を図るために、農業の關係の、どなたかというし、入って私は普通だと思わなければならないけれども、それについてのお考えについてはいかがでしょうか。

○議長（小嶋正彰） 観光商工課長

○観光商工課長（松橋守） お答えいたします。おっしゃる通り、やはり専門家の意見っていうのは非常に重要だというふうには捉えております。こちらの委員の方には入っておりませんが、必要な分野のところにつきましてはこちらの方で視察に行かしていただいたりとか、個別に意見をいただいているというような状況でございます。

○議長（小嶋正彰） 宮崎議員

○議員（宮崎淳一） 最後に1点お願いします。西側の一番北側でしょうかね。トラックステーションであったところ、ちょっと確認なんですけども、そちらの土地というのは、市の土地になっているんでしょうか、それとも、協会の土地なのか、それについて確認の方をさせていただきたいと思います。

○議長（小嶋正彰） 観光商工課長

○観光商工課長（松橋守） はいお答えいたします。あそこはトラックステーションの組織で持っているものでございます。

○議長（小嶋正彰） 宮崎議員

○議員（宮崎淳一） ということは、そのところの土地の部分も、今回リニューアルの、構想の中に含まれるということで、協会からまた取得するとかそういったことへの考え、方向でよろしいでしょうか。

○議長（小嶋正彰） 観光商工課長

○観光商工課長（松橋守） お答えいたします。今現在ではこちらの方で、今時点でこちらの方で取得とかということろまでは考えておりません。

○議長（小嶋正彰） 葭原議員

○議員（葭原利昌） これまでも数人の方がおっしゃってますけども、この道の駅のこのリニューアルに関して、共通コンセプトですかね。みんなの力とまちの魅力の好循環とあって非常に私はこれはこれでよいことだし、進めていただきたいと思います。ただその進め方に於いて、この道の駅だけでなく、この中心市街地もあるし、それから和田地区でも、もうすでにあれだけの市街地化になっているところもある。そういったところをきちんと俯瞰して、全体的なところで見て、そしてこの、道の駅ってのはどういうふうにしていこうかっていう部分が、これからの実施計画、基本計画を作るにあたっては必要になってくると思いますので、そこら辺は、十分考慮していただきたいと思います。それから昨年、芝浦工業大学とのSDGs連携の中で、この道の駅とそれから中心市街地を結んで云々というお話があったと思います。そこら辺については今回の、この構想或いはこれから作っていく基本計画との関わりはどのようでしょうか。

○観光商工課長（松橋守） お答えいたします。芝浦工業大学からは、昨年度、スマホを活用しました人の流れについて研究と申しますか、調査をしていただいております。そういうふうなデータにつきましては、今回のこの検討委員会の中でも、活用させていただいております。今後につきましては、またこれから芝浦工業大学が入ってきますけれども、今おっしゃられた中心市街地と道の駅との連携っていう部分につきましては、これからまた芝浦工業大学との研究の中で、何ていうんでしょうかね、協議して参りたいというふうにご検討しております。

○議長（小嶋正彰） 葭原議員

○議員（葭原利昌） ぜひそのようにお願いします。6ページお願いします。一番最後でしょうかね。改修イメージ図

構想案です。先ほども宮崎委員から話のあった農地の関係です。私は農地の活用、大芝生広場ですとか、その上に花畑バイオマス発電施設というふうにありますけども、非常に大きな面積ですよこれ。3反歩の田んぼで大体もう8枚10枚、もっともったかなあ、十二、三枚あるんでしょうか。これ相当な農地です。ご案内の通りここはもう優良農地ですよ。今非常に米、問題、米に関しては非常に、日本全国です非常に今ナーバスになってる中で、本当にこれは先ほども市長じゃないですけど、大ぶろしきっていう話もありましたけども。そこは今度現実的なところですよ、収斂していただきたいなど。いうふうに思いますいかがですか。

○議長（小嶋正彰） 観光商工課長

○観光商工課長（松橋守） お答えいたします。先ほどのお話しじゃないんですけども、かなり構想的な部分という中で示させていただいております。その中で、これから現実的な計画を作っていく中で、このエリアにつきましても、ある程度収斂したりとか、絞られたりとか、てくる部分もあり、あるかと思しますので、その辺はまたその時点時点での現状に合わせた中で、無料のない計画を作っていくというふうに考えております。

○議長（小嶋正彰） 葭原議員

○議員（葭原利昌） はい。ということでこれ、これでいくんだというようなどころではないというところの確認をお願いします。

○観光商工課長（松橋守） 目指すところは何て言うんでしょうかね、先ほどらい上げている、4ページ等でも上げている、いろんな取り組みの中を目指したいと思っておりますけども、ただそうは言っても現実的に難しかったり、すぐできなくて少し時間がかかってしまったり、する部分も出てくるとは思いますが、それも含めて、これからまた検討委員会ですとか、あと将来のプロジェクトの中で、いろんな話をしてそれを揉みながら、計画の中に落とし込んでいきたいというふうに考えております。

○議長（小嶋正彰） 今田議員

○議員（今田亜樹） 今田です、よろしく申し上げます。行政側の体制について、ちょっとお伺いしたいんですが。この道の駅第3ステージの応募にあたり、首長と駅長の連名でというふうに国土交通省に書いてあります。先ほど課長の説明の中で今後、今もだと思んですが、庁内の特定プロジェクトとして進めているというお話がありました。先ほど来宮澤議員、それから議員、霜鳥議員からも、まちの魅力もやっぱり高めていかないと、これできないよねというお話の中で、行政側の体制について今後観光商工課が今、全部やってくさってますが、他ももちろん必要だと思えますし、そういった形で特定プロジェクトとして進めていると思んですが、その体制について、今現在どのようになっているか、今後どうしていくかというのをちょっと教えてください。

○議長（小嶋正彰） 観光商工課長

○観光商工課長（松橋守） はい。お答えいたします。体制的には今現在は、議員おっしゃられたように、観光商工課が中心となりまして、国との交渉ですとか、様々な事業展開について検討していると、いう中で、ただ先ほど申し上げ、先ほど来お話がありますように、このリニューアルにあたりましては、いろんな分野、関わって参りますので、そういう分野、例えば観光商工課だけではなくて、ただ、総務課であったり建設課であったり農林課であったり、健康保険課であったりというふうな、庁内でも当然関わってくるところがございまして、今現在、それらの関係課とプロジェクトを組んで、いろんな意見をいただいているところです。今後につきましても、例えばそれでもって道の駅の、何か新しい組織を作るというふうな形ではなく、現在のプロジェクトを、の中で意見をいただきながら進めていくようになるんじゃないかというふうに考えております。

○議長（小嶋正彰） 今田議員

○議員（今田亜樹） ありがとうございます。今日本全国で多分いろいろなところで、いろいろな事業があるんです

が、結構企業さんたちが、地方に目を向けているという現実もあると思います。その中でこれ日本の中で、10でし
たっけ道の駅の第3ステージ選ばれたというのはすごいことだと思いますので、これをきっかけに、それこそ、い
ろんな企業さんたちが妙高に目を向けていただけるような形で発信していくためにも、観光商工課だけではなく、
いろいろな課が連携して行政としても対応していただければと思います。以上です。

○議長（小嶋正彰） 他にございませんか。よろしいでしょうか。以上をもちまして、全員協議会を閉会といたします。
ご苦労さまでした。

閉 会 午前11時17分